

令和2年度（2020年度）

日田市埋蔵文化財年報



2021 日田市教育委員会

発刊にあたって

日田市には、長い歴史と伝統に育まれた文化財が数多く残されています。市では、これら貴重な文化財を市民共有の財産として後世に永く伝えていくため、その保存と継承、活用に努めています。

埋蔵文化財においては、その存在及び取り扱いについての周知を行い、埋蔵文化財の保存を図るとともに、発掘調査などで得られた日田市の歴史や文化についての情報を、より多くの市民の方々へ発信するよう努めているところです。

さて、令和2年度には、各種開発に伴い失われる埋蔵文化財に対し、記録保存のための発掘調査を実施したほか、国指定史跡の確認調査も実施しました。本書では、この1年間に日田市で行った埋蔵文化財保護行政の概況をまとめています。

最後になりますが、埋蔵文化財の調査及び普及・啓発にご指導・ご協力を賜りました関係者の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

令和4年3月

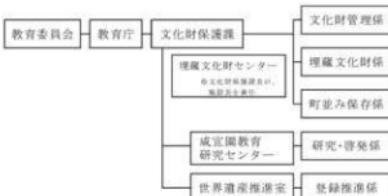
日田市教育委員会 教育長 三管 真治郎

例　　言

組　　織

1. 本書は、令和2年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査における遺物・図面・写真類等の資料については、日田市埋蔵文化財センターに保管・展示している。
3. 表紙写真は成宜園西家跡（本文8P参照）、裏表紙は城下町造跡8次調査（本文7P参照）の写真である。
4. 本書の執筆について、それぞれの文末にその執筆者名を記している。発掘調査位置図や各種表については上原が作成した。
5. 編集は、各担当の協力の下、上原が行った。

日田市における令和2年度の文化財保護部局の行政組織および文化財保護課埋蔵文化財係の体制は、以下のとおりである。



目　　次

《埋蔵文化財係》

発刊にあたって

I 埋蔵文化財調査事業	
(1) 埋蔵文化財調査の概要	1
(2) 発掘調査・確認調査の概要	10
II 史跡等整備事業	11
III 普及・啓発事業	
(1) 埋蔵文化財センター運営事業	12
(2) 普及啓発事業	13
(3) その他（資料掲載、貸出・閲覧・受領図書）	15
原田 弘徳：主査（～9月）	
事前審査・予掘調査に関する事項	
収蔵図書の整理・保管・管理に関する事項	
矢羽田 幸宏：主査（10月～）	
史跡ガランドヤ古墳群保存整備事業	
史跡廣瀬談窓邸及び墓保存整備事業委員会に関する事項	
上原 翔平：主査	
史跡小辻辻原遺跡整備事業、市内跡等調査事業	
史跡廣瀬談窓邸及び墓保存整備事業（委員会対応）に関する事項	
用津 敏國：会計年度任用職員	
埋蔵文化財センターの管理・来館者への対応に関する事項	

民間開発 188 件のうち、個人住宅や建売住宅の新築工事は 92 件で、増改築工事、集合住宅建築や宅地造成工事といった居住空間に関するものを含めると 106 件と全体の 56% 以上を占めており、例年通り開発目的の中で最も高い割合であるが、昨年度に比べると減少傾向にあることから、個人住宅など居住空間に関する開発は落ち込んでいるとみられる。

公共事業に関しては、施設改修や防災倉庫の建築など、近年頻発する災害に備えたものが増えている傾向にある。また、大規模開発工事として焼却施設等更新事業が挙げられる。

こういった開発に伴う届出等に対し、市教育委員会が実施した予備調査（確認調査・試掘調査）は 32 件であり、その内訳は民間開発に伴うものが 25 件、公共事業に伴うものが 7 件であった。

なお、令和元年 9 月から施行された建築協議書による周知遺跡の確認件数は、209 件であった。その内、開発対象地が包蔵地内であったのが 105 件、周知遺跡外が 104 件であった。（表 4）

表 4 令和 2 年度 建築協議対応件数

協議月	周知の 埋蔵文化財包蔵地		月ごと 計	備考
	内	外		
4 月	5	8	13	
5 月	8	10	18	
6 月	6	7	13	
7 月	18	6	24	
8 月	13	7	20	
9 月	7	3	10	
10 月	10	13	23	
11 月	9	14	23	
12 月	8	7	15	
1 月	5	8	13	
2 月	4	12	16	
3 月	12	9	21	
合計	105	104	209	

令和 2 年度の発掘調査の内容（表 5）

当該年度に実施した予備調査の 32 件は、いずれも本発掘調査の実施には至らずに確認調査等までで調査を終えているが、日田市の歴史を考えていく上で重要な資料・情報を得ることが出来た遺跡もあった。本年報では、次項にて工法変更により遺跡の保護が図られたものや新遺跡の発見につながったものを紹介する。

ここでは、本発掘調査および予備調査の成果から、この年の市内での発掘調査で得られた情報を概観したい。

この年、先史時代の遺構は認められなかった。縄文時代については、上野遺跡の確認調査から出土した石器などから対象地周辺に縄文時代以前の遺物包含層が存在する可能性が考えられた。

弥生時代については、携帯電話基地局設置に伴い行われた尾瀬遺跡の確認調査で、複数の土坑が検出され、その土坑から弥生土器片が出土しており、対象地周辺にこの時期の遺跡が広がっていたと考えられる。

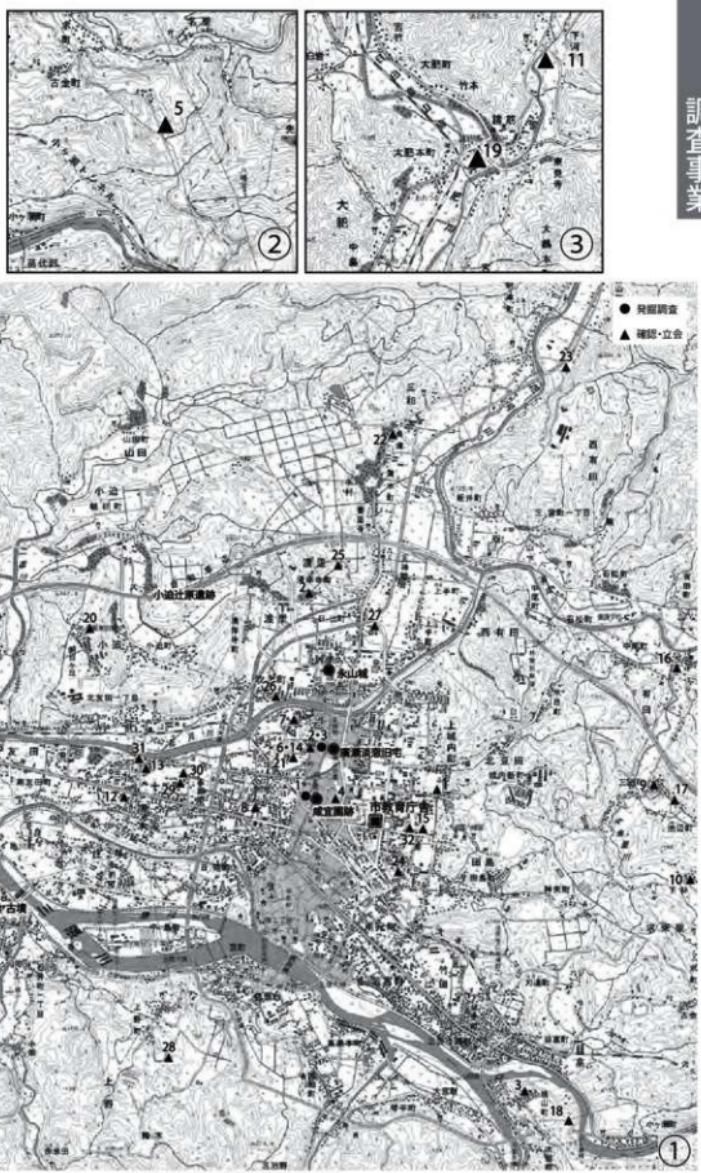
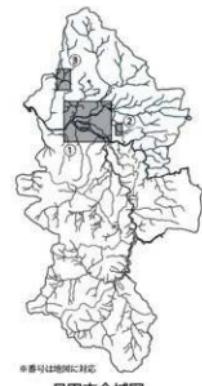
古墳時代については、個人住宅新築工事に伴う日田条里遺跡の確認調査で、小土坑と溝状遺構が検出され、これららの遺構から当該期とみられる遺物が出土している。

古代については、倉庫新築工事に伴い行われた上野遺跡の確認調査で、掘立柱建物や土坑・ピットが確認された。これらの遺構から明確な時期を示す遺物は確認されたなかったものの、周辺におけるこれまでの調査の状況からこれらの遺構は奈良時代のものと考えられ、対象地まで遺跡が広がっていることが想定された。

中世については、個人住宅新築に伴い行われた大波羅遺跡の確認調査で、中世の整地層とみられる層から土師質土器が出土した。対象地の北側に広がる慈眼山遺跡でも中世の整地層が広がっていることが確認されていることから、整地層の広がりを考え一つの成果があったといえる。

このほか、宅地造成に伴い行われた郷四郎遺跡の確認調査では、小土坑が複数検出され、そのうちの一つから中世の青磁片が出土した。また、この調査で周知遺跡の外まで遺跡が広がることが確認できることから、その範囲を庄屋町遺跡として新遺跡に登録している。

そして、近世・近代については、重要遺跡の確認調査として行った史跡或古園跡（西家側）の調査では、史跡を構成する主な時代である江戸期の遺構は確認できなかったが、昨年度に引き続き江戸期から明治期の陶磁器が多く出土している。そのほか、前年度から引き続き豆田町に所在する草野家住宅の修理工事に伴い行われた城下



(2) 発掘調査・確認調査の概要

1. 城下町遺跡 7次調査

一国指定重要文化財草野家住宅（個人住宅）保存修理工事に伴う発掘調査

城下町遺跡 7次調査地は、日田盆地の中央よりやや北寄りに位置し、国の伝統建造物保存地区に選定されている豆田町の南側にある。

調査は、令和元年度から引き続き国指定重要文化財草野家住宅の耐震補強工事に伴い、地表面下に掘削が及び過去の遺構が失われる箇所を対象に行った。

令和2年度の調査では、昨年度の調査で確認した整地層、造成土の下層まで掘り下げて自然堆積層とみられる灰白色砂質土層を確認した。また、ここでは、水が湧くような状況がみてとれた。

今回の調査で確認された造成土については、調査地まで屋敷地を広げた時期が享保10年（1725）頃と想定されていることから、その時期に屋敷地を広げるために行われた造成と考えられる。（上原）



遺跡位置図 (1/5,000)



発掘調査位置図



調査区全体（東から）



調査区北壁（南から）

2. 城下町遺跡8次調査

—国指定重要文化財草野家住宅（個人住宅）保存修理工事に伴う発掘調査—

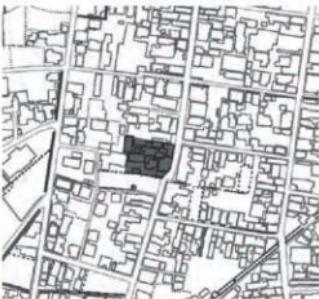
城下町遺跡8次調査は、7次調査（P6参照）と同様に国指定重要文化財草野家住宅の耐震補強工事に伴い行われた。

調査は、店舗部建物の基礎補強に伴って解体される土間・石敷部分を対象に行った。

調査の結果、現地表面の20cm下部からは水路基底とみられる瓦列が確認された。また、調査区南側からは瓦の集中する層、20~30cmの大円礫が並べられた石列などが検出された。そのほか、調査区北側には深さ1.6m程の素掘り井戸も検出された。

店舗部は安永元（1772）年の大火後に建てられたものと思われ、明治前期頃の改築によって調査地まで建物が広がる以前は、絵図等によると調査地の北側までしか建物は広がっていないと判断される。こうしたことから、今回の調査で確認された石列や水路跡、井戸跡などの痕跡は安永元年前後の建物に付随する施設として整備された痕跡を示しているものと思われる。

今回の調査によって草野家の建物変遷を明らかにする上で貴重な成果が得られた。
（上原）



遺跡位置図 (1/5,000)



瓦列検出状況（北西から）



発掘調査位置図



素掘井戸発掘状況（東から）

3. 咸宜園跡

—重要遺跡の確認調査—

調査対象地は、史跡咸宜園跡の指定地西側、私熟咸宜園の「西家」といわれる空間にある。

令和2年度は、3年間の発掘調査計画の最終年度であり、調査対象地の北側に遺されている井戸の周りを調査箇所とした。

咸宜園の西家側は、明治時代の塾解体後に、郡役所や産業会館、さらに昭和51年には金融機関の建物が建設された位置であり、調査の主目的は、史跡の地下遺構（咸宜園跡）の残存状況の確認であった。これまでの調査箇所では、明治時代以降の建物建設に伴い、史跡地内は大きく掘削や深く削平された状況が見て取れ、史跡の時代の遺構は残されていなかったが、今回の調査箇所は、「咸宜園の井戸」として後世まで残されていた範囲とその付近であることから、後世の造成などが、土地に与えた影響は少ない、もしくは無いものとみられ、史跡の時代の遺構の確認が期待されていた。

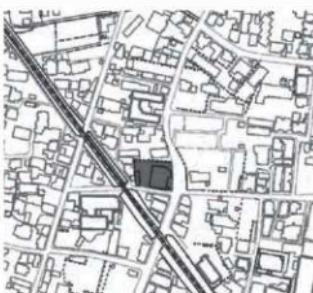
調査では、「咸宜園の井戸」として残されていた調査箇所北側にはトレンチを設定し、調査箇所南側は表土を除去するとともにトレンチを設定し、確認調査を実施した。また、遺構かどうか判断つかない痕跡については、確認トレンチの設定や半裁等を試みた。

調査の結果、調査箇所南側のほぼ半分程度は、昭和51年の金融機関建設に伴い、大きく破壊されていることが判った。

調査箇所北側については、現地表面の数センチメートル下位にて、一時期前の地表面とみられる円礫交じりの土層を確認した。この土層については、咸宜園時代の地面の痕跡ではないかと期待したもの、その下位から近代や現代の遺物が出土したことから、近代から現代にかけての造成の痕跡であることが判明した。

以上のとおり、今回の調査箇所においても、これまでと同様、近世の咸宜園時代の明確な遺構は確認出来なかった。

(今田・上原)



跡地位置図 (1/5,000)



調査区全体写真 (南から)



調査地平面図 (1/500)

4. 上野遺跡

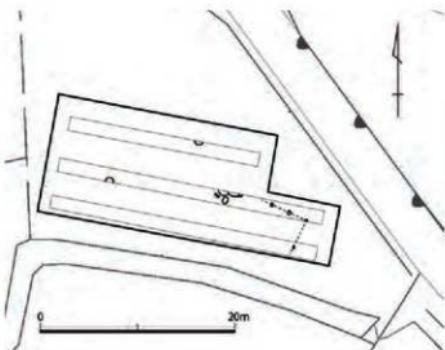
上野遺跡は、日田盆地の南を区切る標高約136mの阿蘇4火砕流台地上に位置する。対象地の北には国道210号日田バイパスが東西に走っており、このバイパス建設の際の発掘調査で、周辺では奈良時代の駅家跡と目される掘立柱建物群や「豊馬豊馬」と読める線刻のある権（秤のおもり）などが確認されている。

対象地は水田として利用されており、工事計画では倉庫の基礎が現況地盤から約1.2mの深さまで入ることとなっていた。

倉庫の予定範囲内にトレーニングを3本設定して掘り下げたところ、水田基盤土直下の浅い位置で掘立柱建物1棟、土坑6基などが検出された。

これらの遺構から遺物の出土はなかったが、敷地内では土器片・陶磁器片・石器が採集されており、前述のバイパス建設時に確認された奈良時代の建物群の一端である可能性が考えられる。

以上のような調査結果から、工事前には本調査が必要と判断したが、事業者側が計画及び工法を変更し、遺跡は保存されることとなった。（行時）



トレーニング配置及び遺構平面図 (1/500)

—工場建設に伴う確認調査—



遺跡位置図 (1/5,000)



掘立柱建物検出状況 (北西から)



土坑検出状況 (北西から)

5. 尾瀬遺跡

—携帯電話無線基地局設置工事に伴う確認調査—

尾瀬遺跡は日田市東部、有田川と求来里川に挟まれた微高地に位置する。一帯はこれまでに圃場整備や河川改修、市道建設などに伴う発掘調査で、弥生時代～中世の集落や、弥生時代の小児用土棺墓、古墳、中世の木棺墓、縄文時代の落穴状遺構などが確認されている。

調査は、コンクリート柱設置予定位置にトレーニングを設定し、掘り下げたところ、3つの土坑が検出された。土坑からの出土遺物はきわめて少量かつ時期比定困難であったが、土坑の切り合い関係や土層観察及び表探遺物から、これらは同時併存ではなく、弥生・古墳時代から現代までの間に順次掘られたことが推定された。

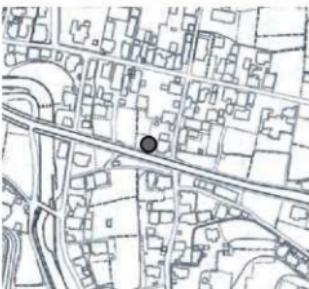
なお、上記3つの土坑の間に遺構のない部分が確認されたことから、事業主の協力を得たうえで、後日埋蔵文化財担当職員立会のもと、土坑のない部分に柱を設置する工事を行い、遺跡を保存した。(行時)



検出状況



立会調査状況



遺跡位置図 (1/5,000)

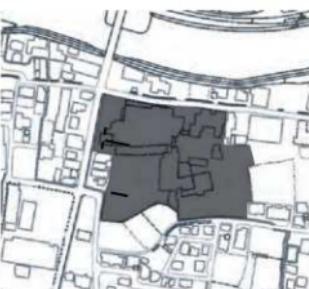
6. 庄屋町遺跡

—宅地造成工事に伴う確認調査—

庄屋町遺跡は、日田盆地の中央よりやや北西寄り、花月川左岸の沖積地に所在する遺跡で、従前は埋蔵文化財包蔵地外であったが、今回の宅地造成工事に伴う確認調査でその存在が明らかとなった。

今回の宅地造成工事予定地は概ね南半が郷四郎遺跡に該当し、北半は包蔵地外であった。ただしこの包蔵地外部分の小字名が「庄屋町」であったため調査対象とした。

調査は、位置指定道路予定地を中心にトレーニングを設定し掘り下げたところ、郷四郎遺跡の範囲内では遺跡の存在は確認されなかつたが、小字「庄屋町」の範囲において、現地表面下約80cmの深さで小土坑や地形の落ち込みが検出された。小土坑からは中世の青磁片と瓦器片の2点が出土しており、中世の集落跡と考えられ、小字「庄屋町」の範囲を「庄屋町遺跡」として新規登録した。なお、今回予定される工事では、遺跡の存在する深さまで掘削が及ばず、遺跡を損なうおそれがないことから、工事着手を認めた。(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



検出状況（東から）

II 史跡等整備事業

(1) 国指定史跡 ガランドヤ古墳

令和2年度は、昨年度に引き続き史跡公園整備工事としてガイダンス施設建設工事を実施した。

ガイダンス施設は木造瓦葺の1階建て、115.95 m²の施設である。1・2号墳に関する解説展示スペースや休憩スペース、ボランティアガイド詰所、男女便所、多目的便所などを備えている。なお、解説展示や休憩スペースの工事は、1号墳の園路整備と共に令和3年度に実施する予定である。そのほか、1・2号墳内部環境の調査のほか、保存整備委員会については新型コロナウイルス感染症予防対策として書面会議にて実施した。

(渡邊)



ガイダンス施設平面図



ガイダンス施設完成



ガイダンス施設内部

(2) 国指定史跡 廣瀬淡窓旧宅及び墓

令和2年度は、平成30年度の解体工事、令和元年度に作成した実施設計に基づき、北家主屋保存修理工事を継続して実施した。3年目にあたる工事では、床下地組や根固め、小屋組や梁取替、屋根土居堁き、外壁土塗り、便所棟整備工事を行った。そのほか、修理工事の設計管理委託や移設樹木等の管理委託なども実施し、保存整備委員会については8月4日と3月の2回開催し、北家主屋の修理方針と同工事について指導・助言を受けた。なお、3月については新型コロナウイルス感染症予防対策のために書面会議にて実施した。

次年度は、引き続き北家主屋の保存修理工事等を行う予定である。なお、この事業の主体は所有者である廣瀬家であり、日田市は国・県とともに市費による補助金を交付し、また業務支援を行っている。(渡邊)



屋根施工風景



梁取替作業風景

III 普及・啓発事業

(1) 埋蔵文化財センター運営事業

平成 15 年度より、普及・啓発事業を中心とした埋蔵文化財センター運営事業を継続して行っており、企画展や市民を対象とした考古学講座、考古体験などを実施した。

○埋蔵文化財センター見学者数

月	見学者数	団体	個人	備考
4月	0	0	0	※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、
5月	0	0	0	4/1～5/27 の間は休館とした。
6月	2	0	2	
7月	2	0	2	
8月	7	0	7	
9月	1	0	1	
10月	11	8	3	いづま小学校 6 年生来訪（8 名）
11月	13	0	13	
12月	11	0	11	
1月	5	5	0	日田三陽高等学校 1 年生（5 名）
2月	1	0	1	
3月	56	0	56	3/16～3/31 発掘調査新資料展（56 名）
計	109	13	96	※発掘調査資料展は令和 3 年 8/31 まで



常設展示見学風景
(いづま小学校 6 年生)

1. 日田市埋蔵文化財センター企画展「発掘調査新資料展」(開催期間：令和 3 年 3 月 16 日～令和 3 年 8 月 31 日)
平成 30・31 年度に市内で行った発掘調査や自然科学分析の成果、また史跡整備工事や災害復旧工事のようすを紹介するため、遺物・写真パネルの展示を行い、令和 3 年 3 月 31 日までの間に市内外から 56 名の来館があった。引き続き、令和 3 年 8 月 31 日まで開催する。

2. 考古学講座「タイムトリップひた Vol.18」

市民を対象に、「考古学」や「埋蔵文化財」を通して「地域の歴史」に対する関心を深めてもらうことを目的として開催している。本年度は、遺跡から出土する土器や石器だけでなく、様々なもの・ことから「考古学」を組plexく内容とし、県内から講師を招いて全 6 回の講座を実施した。なお、例年は講座の一環としてバスツアーを実施してきたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、本年度はバスツアーは企画しなかった。

講座	月日	内容	講師	受講数
第1講	9月 13 日	縄文遺物からみた先史時代の社会	別府大学教授 下村 智氏	39
第2講	9月 29 日	弥生時代の縄編陶器	大分県教育庁文化課 月 大樹氏	35
第3講	10月 6 日	古墳のライピストリー	大分県立埋蔵文化財センター 緒田 旗正氏	39
第4講	10月 22 日	遺物からみた古墳と古代国家	大分県立歴史博物館 越智 淳平氏	28
第5講	10月 29 日	晩後の中世石造物	大分県立歴史博物館 須田 明一氏	29
第6講	11月 12 日	日田を作った「城」と「町」	大分県立埋蔵文化財センター 小柳 伸氏	43

◆受講申し込み者数は 47 名



第 1 講



第 3 講



第 5 講



第 2 講



第 4 講



第 6 講

3. 考古体験

楽しみながら先人の知恵や技に触れ、埋蔵文化財についての理解を深めてもらうための機会を提供する目的から、「火熾し体験・展示見学・整理作業見学・考古の話」などの体験メニューを各団体からの申し込みにより実施しているが、新型コロナウィルス感染拡大の影響で学校が休校等になったこともあり、本年度は1団体のみの実施となつた。

月日	団体名	内容	場所	参加人数
10月16日	いつま小学校6年生	現地見学・考古の話・展示見学	宇土遺跡3号墳 埋蔵文化財センター	8



現地見学



考古の話



展示見学

(2) 普及啓発事業

遺跡の調査内容を広く市民に公開するため、現地説明会、講師の派遣や調査報告書の作成などを行った。

1. 現地説明会・体験会

ボランティアによる史跡小追辻原遺跡草刈り

開催日：令和2年11月5日

場 所：史跡小追辻原遺跡

参加者：草刈ボランティア 14名

内 容：地域にある史跡・文化財に触れて歴史についての関心を深めるため、草刈りボランティアの募集を行い、史跡の維持管理としての除草作業を行うとともに、史跡についての解説を行うことで、身近な文化財への愛護意識を高めることができた。ボランティアの参加募集にあたっては、遺跡の所在する地元の自治会長に、地域の方への周知や日程等の調整に協力いただき、多くの方に参加いただくことができた。



ボランティアによる除草作業1



ボランティアによる除草作業2



史跡説明状況

2. 講師派遣・依頼

講師等の派遣依頼は6件であった。小学校や公民館活動に伴う子ども対象の依頼が多いが、近年は歴史愛好家のグループなど一般団体からの依頼もある。

月日	派遣・依頼先	内容	講師	参加数
6月26日	光岡小学校6年生	大おこし体験・考古の話	矢野・行時・井上・上原	97
7月15日	三芳公民館（三芳小学校6年生）	考古の話（法恩寺山古墳群見学予定が雨天となったため）	上原・田島（文化財管理係）	57
7月21日	三和小学校6年生	大おこし体験・考古の話	矢野・行時・井上・上原	49
11月2日	日田古代史連続講座	講演「五馬城と五馬の古墳」	今田	29
12月19日	日田考古学同好会学習会	講演「帝勢時代の盆地内の集落の紹介」「吹上道路-12次調査の報告」	上原・行時	18
1月26日	日田二葉高等学校1年生	地域に学ぶ：調査の対応（日田の古墳について）	今田・井上	5



三芳公民館（三芳小学校6年生）



日田考古学同好会学習会



日田三隈高等学校1年生



光岡小学校6年生

3. 刊行物

埋蔵文化財の発掘調査報告書を1冊と平成31年度の埋蔵文化財年報を刊行した。

書名	巻次	体裁	総頁	内容	担当者
1 平成31年度（2019年度）日田市埋蔵財年報	-	A4	24	平成31年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業、普及啓発事業などを収録。	今田 (編集)
2 水町遺跡	140	A4	30	古墳建設に伴い、平成30年度に実施した発掘調査の成果を収録。調査では、弥生時代前半～後期前半、勢生時代後半～中期～古墳時代初期、中世の遺構が確認された。 遺構の時期層は広いものの、遺構数が少ないとから、存続期間の短い小規模な集落が断続的に存在していたものと考えられる。	行時

(3) その他（資料掲載、貸出・閲覧・受領図書）

埋蔵文化財関連資料の掲載申請は3件、貸出は3件で資料の閲覧は3件であった。

1. 掲載申請

受付日	資料名	借用・貸出先	目的
4月28日	平成30年度（2018年度）日田市埋蔵文化財年報	日田考古学同好会 会長 原田 文利	会報作成のため
5月19日	平成30年度刊行埋蔵文化財調査報告書 平成30年度日田市埋蔵文化財年報	ひたインターネット協議会	ホームページ掲載のため
9月28日	吹上遺跡N 6次調査の記録 吾田岡版4 4号貴賀福副神品 P1 吹上台地空中写真 P6 第3段6 次調査遺構配図	株式会社NHK 文化センター 名古屋営業部 総社長 加藤 恒子	オンライン講座資料として利用するため。

2. 資料貸出

受付日	貸出期間	資料名	借用・貸出先	目的
5月11日	5月16日～ 9月2日	日田条里遺跡上手地区：黑色土器1、白磁碗片3、石鏡1 大隈中村遺跡：青磁碗1、小刀1、罐1、銅鏡1 森ノ元遺跡：青磁碗1、青磁瓶1、小刀1 尾瀬遺跡：4次：懸仏1 小道辻原遺跡：墨書き青磁碗1 小道辻原遺跡：O区：小札1 水谷城跡：磁器片3、瓦1 慈陽山遺跡：土師質土器6	日田市立博物館	企画展示のため
2月5日	3月5日～ 3月8日	火おこしセット20	鷗谷 森美	イベントで使用する為
2月24日	2月26日～ 6月15日	土師器、青磁：慈陽山遺跡 10次調査出土 金珠：中川原遺跡 1号中世墓出土	大分県埋蔵文化財センター	企画展示の為

3. 資料閲覧

受付日	閲覧日	資料名	内容	申請者	目的
9月24日	9月29日	伪製内行花文瓦（破片）：木村遺跡 3次調査出土 船載痕三公鏡（破片）：徳瀬遺跡 B区出土	実見、実測、写真撮影	大分県教育庁文化課 井大輝	調査研究のため
10月20日	10月23日	出土墨書き土器：大隈道路（A-2区）出土 鉢、用 壺：大隈道路 5次調査 1号溝出土 ：2号大型柱穴列C-列出土 ：2号溝出土 須恵器 瓶：柱穴（P8）出土	実見、メモ、写真撮影	大分県立歴史博物館 主任研究員 遠智 浩平	調査研究のため
2月10日	2月12日	土師器、青磁：慈陽山遺跡 10次調査出土 金珠：中川原遺跡 1号中世墓出土	実見	大分県埋蔵文化財センター	企画展示のため

4. 図書の収蔵

令和2年度に各団体から寄贈を受けた図書

総数 564 冊

（内訳：文化財機関 27 冊、大学 41 冊、博物館 40 冊、都道府県教育委員会 78 冊、市町村教育委員会 314 冊、
その他 64 冊）

令和2年度購入図書

下記の月刊誌を定期購読

- 月刊文化財
- 月刊考古学ジャーナル
- 文化財発掘出土情報



城下町遺跡8次調査発掘状況

令和2年度（2020年度）

日田市埋蔵文化財年報

発行日 令和4年3月10日

編集・発行 日田市教育委員会

日田市教育庁文化財保護課

〒877-8601

大分県日田市田島2丁目6-1

Tel 0973-24-7171

印 刷 日田時報紙器印刷株式会社